

平成30年度大阪府立八尾支援学校 第3回学校運営協議会報告

□日 時 平成31年2月26日(火) 午前10時～12時

□場 所 大阪府立八尾支援学校 校長室

□学校運営協議会委員会名簿

◆学校運営協議会委員（50音順）

岡崎 裕子	（大阪大谷大学 教育学部 教授）
御前 敬	（八尾市障がい福祉課 課長）
唐渡 清美	（東大阪市立第一はばたき園 園長）
竹井 雅代	（本校 PTA 会長）
西 喜一	（上之島地区福祉委員会 委員長）
山崎 高義	（東大阪市立障害者就業・生活支援センター 所長）

◆大阪府立八尾支援学校

東野 裕治	（校長）
森本 裕	（准校長）

◆学校運営協議会事務局

岡本 泰宜	（教頭・高）	山田 美也子	（教頭・小中）
山崎 静一	（事務長）	荒木 智恵子	（首席）
井川 忠都	（首席）	松永 記一	（首席）
荒木 聖	（首席/部主事・高）	松村 由美	（部主事・小）
長谷川 次郎	（部主事・中）	北本 一輝	（進路指導主事）

□出席者

委員6名、校長、准校長、事務局6名 計14名

□次第と協議内容（要約）

○校長あいさつ

○H30年度学校教育自己診断

- ・昨年と比べ保護者、高等部の生徒からの提出率が上がった。
- ・昨年の学校協議会で提言のあった生徒向けアンケートの文言についての検討をおこない、生徒がより答えやすい文言に修正した。
- ・今年度『保護者向け』の29項目中すべての項目が達成基準に達し、『教職員向け』については、61項目中52項目が達成基準に達した。また、『生徒（高）向け』については、11項目中8項目が基準に達した。『保護者向け』については、若干数値が下降した項目もあるが概ね昨年と変わらない結果であった。その中で課題としては、肯定的意見が70%台、否定的意見が10%代後半の「清掃が行き届いているか」と「施設・設備の安全」が挙げられる。大規模改修が今年度実施され、来年度も予定されており改善された箇所も大いにある。しかし、プレハブ校舎をはじめ引き続き改善に向けて取り組んでいく必要がある場所もある。

『教職員向け』については、特に【組織マネジメント】の項目で数値の下降が多かった。管理職にとって大きな課題であると同時に教職員一人ひとりの課題である。管理職はコミュニケーションの機会を十分に設け、教職員は機会を捉えて意見具申していくことが大切である。

『生徒向け』については、コミュニケーションに関する項目で数値の上昇が見られた。今後も引き続き教員と子どもたちとのコミュニケーションを大切に生徒理解を深めていきたい。

⇒生徒向けアンケートの文言を変えたのはとても良かったと思う。やさしい文章表現は大切である。「わからない」という項目が多い箇所については内容・文言の検討が必要でないか。

⇒アンケートで見えてきた課題が経営計画に反映されることが理想。

⇒「清掃が行き届いているか」と「施設・設備の安全」については構造化という観点も大切である。

○平成30年度学校経営計画と自己評価について

- 自己評価が(△)の項目について。中期目標1「支援学校における教育力の向上、組織としての専門性向上」(1)③授業アンケートの分析が遅かった。(4)職務遂行のアンケート調査は行っていないが首席の職務分担や役割分担は改善、部首事との役割分担も検討した。(5)②学校教育自己診断の教職員項目「学校課題の改善」の肯定評価が昨年より5%減の65%。
中期目標2「キャリア教育・進路指導の充実」(1)②ライフスキルのがんばり表は別途作成するのではなく、個別の指導計画にライフスキルの観点を落とし込み、その指導の中で評価を児童生徒にフィードバック。
中期目標3「センター的機能の充実・発揮と開かれた学校の推進」(1)訪問相談、研修講師回数とも、前年度比1.5倍以上は達成していないため。
中期目標4「安全・安心な学校づくりの推進」(3)②校内の清潔さはもちろんであるが、来年度の大規模改修においては使いやすさについても念頭において要望していきたい。

• 高等部

中期目標1(2)②「教材バンクの活用、教材の共有」について課題の整理は行ったが、仕組みの見直しには至らなかった。(4)②学校教育自己診断の生徒向け項目「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価が10%減の79%。
中期目標2(1)①「キャリア能力に関する評価測定のための評価指標」の4項目の統計は出し、実態は把握したが、指標を意識した授業への展開は不十分であった。(3)①新規実習先を、当初想定していた数より大幅に多い17社を開拓した。また、本人が希望する職種だけではなく、強みを生かせると思われる複数職種の実習を実施した。③3年生全員が3～5日間の作業所実習を実施した。
中期目標3(1)②私学高からの具体的な相談はなかった。引き続き、地区内の府立・私立高校へのサポートについての周知を継続する。

⇒私学高からの具体的な相談がなかったから△というのは違うのではないか。目標の立て方を考えてみればよいのでは。

⇒すごく高い数値であるにもかかわらず～%下がったから△ではなく、違う指標が必要では。

⇒学校の考え「肯定的意見が70%以上を達成している」というものと少しずれているのでは。

⇒「ライフスキルのがんばり表」を別途作成するのではなく、個別の指導計画にライフスキルの観点を落とし込むということになった経緯は？

A：新しい指標を用いるのではなく、すでにある(2年前に作成した)評価指標を使って個別の指導計画を作成することが浸透しており、小・中・高同じ指標で子どもたちを見ることを大切にしたい。

○平成31年度学校経営計画案について

めざす学校像

- ・ポイントを絞ることができる限りシンプルに作成した。

中期的目標

- ・個別の教育支援計画やシラバスについては様式が小・中・高で違うため、同じ見方で支援していくために改善を図る。
- ・35歳～45歳の教員が非常に少ない。知的障がいの高い専門性のある授業ができる教員が少なくなってきた。指導技術力、授業力の伝承を図るために共有化・アーカイブ化を進めていきたい。
- ・主体的に深い学びとなるよう、子どもたちがICT機器を活用する授業を構築していきたい。
- ・校内支援や研修により、教員の専門性や指導技術の底上げを図る。
- ・障がいのある子どもたちの社会参加へのための切り口としてパラスポーツや演劇や合奏等を通して地域のみなさんとの関わりを深めていきたい。
- ・八尾市立支援学校を引き継ぎ、中河内支援教育研究会での活動の活性化。
- ・ヒヤリハットの共有。

⇒卒業してすぐ就労ではなく、子どもたちにとって何がマッチするのかを大切に様々な進路先の情報提供をしていって欲しい。

⇒自己診断アンケートの組織マネジメントの数値の低さから、「教員間の情報共有と連携」という文言では弱い。

⇒「日々の教育活動における問題や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場である。」の項目の評価が下がっている。教員が困った際どこにも相談できないというときに子どもに対する対応がおかしくなることにもつながると思うので学校として対応をお願いしたい。

○第3学期授業アンケート（報告）

- ・できることが増えてうれしい。
- ・自分の子どもだけでなく他の子の成長も見れてうれしい。
- ・教材も工夫されていて良かった。
- ・子どもたちの実態に応じた課題設定をお願いしたい。

○進路状況（報告）

- ・高等部卒業生 30名
 - 生活介護・・・11名 就労継続支援B型・・・8名 自立訓練・・・4名
 - 就労移行支援事業所・・・1名 就労継続支援A型・・・1名
 - 一般就労・・・5名

○通学区域割変更について

○八尾支援学校・生野支援学校の通学区域割			(下線部が変更のある市)
学校	学部	2018年度の通学区域割	2020年度からの通学区域割
八尾支援学校	小	八尾市、東大阪市（ただし、向陽学園に入所の児童生徒は西浦支援学校）	八尾市、東大阪市（ただし、向陽学園に入所の児童生徒は西浦支援学校）
	中		
	高	八尾市、東大阪市（長栄中、意岐部中、小阪中、金岡中、布施中、上小阪中、長瀬中、弥刀中、柏田中の校区 <u>ただし、向陽学園に入所の生徒は西浦支援学校</u> ）	八尾市
生野支援学校	小	中央区、天王寺区、東成区、生野区、城東区（寝屋川以南）、鶴見区（寝屋川以南）、平野区（国道25号線以北）	中央区、天王寺区、東成区、生野区、城東区（寝屋川以南）、鶴見区（寝屋川以南）、平野区（国道25号線以北）
	中		
	高	中央区、天王寺区、東成区、生野区、城東区（寝屋川以南）、鶴見区（寝屋川以南）、平野区（国道25号線以北） <u>東大阪市（長栄中、意岐部中、小阪中、金岡中、布施中、上小阪中、長瀬中、弥刀中、柏田中の校区 <u>ただし、向陽学園に入所の生徒は西浦支援学校</u>）</u>	

⇒校区変更になった子どもたちの保護者の思いを汲み取り、子どもたちが次の学校に移ってからスムーズに日常生活が送れるように学校として取り組みを行って欲しい。

○准校長あいさつ

○閉会